

## 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1470901107号	事業の開始年月日	H16年7月1日
		指定年月日	H16年6月1日
法人名	医療法人社団裕正会		
事業所名	グループホーム ウェルケア		
所在地	( 223-0058 ) 横浜市港北区新吉田東 8-31-13		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名
		宿泊定員	名
		定員計	18名
		ユニット数	2ユニット
自己評価作成日	平成24年11月16日	評価結果 市町村受理日	平成25年2月13日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームは一人一人を尊重することを念頭とし、テーマを個別ケアとしています。全体での外出活動や行事だけではなく、個人の個性や特徴を考慮し少人数や1対1の個別支援にも力を注いでいます。職員は入居者のゆとりある生活実現を目指し、不用意に走る・大きな声を出すなどの行為が無いよう努めています。また医療面では母体である介護老人保健施設の訪問看護や協力医療機関と提携している為、スムーズかつ的確な対応が可能となっています。看取りは御本人や家族様の希望に添った形で行なえる様、職員は共通理解した上で対応することを目指しています。

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部		
所在地	神奈川県横浜市西区南浅間町8-22-207		
訪問調査日	平成24年12月12日	評価機関 評価決定日	平成25年1月29日

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<事業所の優れている点>  
 ◇医療連携体制の充実  
 ・当事業所は介護老人保健施設が母体であり、同法人の訪問看護ステーションと連携し24時間対応の看護体制がとられている。協力医療機関との連携、協力体制も充実しており、利用者に安心感を与えている。  
 ◇理念を実践する「利用者のための日常生活」  
 ・事業所理念の「一人ひとりを尊重し、明るく家庭的なゆとりのある生活の提供」を具現化するため、一人ひとりを大切にし、自由な雰囲気の中で利用者は家庭的な生活を送っている。  
 ・利用者の希望に沿い、天気の良い日は毎日、散歩・外出が行われ、近隣の公園、スーパー、コンビニへの買い物支援が行われている。ラーメン店、ファミリーレストランなどへの外食希望者に対しても気軽に個別に対応している。  
 ・利用者は皿洗い・食器拭きなど出来ることをやり、好みのものを職員と一緒に手作りし楽しく味わっている。なかには晩酌を楽しむ利用者もいる。  
 <事業所が工夫している点>  
 ◇食事を楽しむ工夫  
 ・利用者の食欲を高め、好きなものを楽しく食べる工夫として、個人又はグループの希望に沿い、カレー、流しそうめん、餃子、さんまなどを食べる機会を設け、事業所内での食事会又は外食の機会を多く設けている。

### 【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホームウェルケア
ユニット名	星

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域社会との繋がりを大切に、ゆとりのある家庭的な生活を提供するように努めている。理念の共有については会議等で再確認し、ケアの質の向上を常に目指している。	・開設来、「一人ひとりを尊重し、明るく家庭的なゆとりのある生活の提供」を事業所理念としている。利用者と家族のような関係を築き、大切な人と接する気持ちで日々の生活の中で支援に取り組んでいる。 ・管理者は全体会議で理念の具現化を職員に再徹底し、共有している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方々に参加していただく行事の他に、日常的に行っている散歩などでも地域の方に積極的に声かけをし、交流に努めている。	・自治会に加入し、町内会の運動会、地元建設会社のお祭り、JA祭りなどに利用者も職員と共に参加している。事業所内の夏祭り、クリスマス会には近隣の人の参加もある。 ・近隣の小学校の課外学習を今年始めて受け入れ交流が始まっている。ボランティア1名が週1回散歩などの支援をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	利用者様一人ひとりの立場にたった介護の実践と同様、相手の立場にたった接し方を心がけている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	同一法人に属する施設合同で会議を進め、それぞれの取り組みを報告し合いながら、より質の高いサービスに繋げていけるように取り組んでいる。	・本年7月より2か月毎の開催にし、近隣の同一法人傘下の3事業所合同で実施している。 ・各事業所の家族、管理者のほか、町内会長、民生委員、地域包括支援センター担当者が参加している。会議は活動状況報告、評価、質問、包括支援センター担当の助言により進めている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	横浜市のグループホーム連絡会には、港北区・都筑区各区役所職員も参加し、連絡・報告をする場となっている。	・年4回行われる横浜市のグループホームブロック連絡会に、港北区・都筑区役所担当者が出席し、課題などを話し合う機会がある。 ・港北区役所担当者とは入居者に関する相談時に直接話し合う機会を持ち、運営情報を交換し指導を受けている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	会議の際に該当・対象となる事柄を確認し、発生防止に努めている。また、法人の勉強会や外部研修に積極的に参加し、知識向上に努めている。	・身体拘束防止については、所属法人による研修、横浜市のグループホーム連絡会の研修等に職員が参加して学んでいる。活動上で疑問点発生の都度、職員会議で話しが行われている。 ・玄関施錠については法人内で検討し、本年より日中の開錠を実施している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	介助側の精神的ストレスが虐待に繋がる原因の一つとして考えられるため、会議等でストレス緩和や負担軽減ができるような話し合いの場を設けている。また、管理者、職員相互に注意して早期発見に努		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	当施設にも親戚が遠方に住んでいる方もいらっしゃるが、当事者の方ももちろん、外部機関からの助言もいただきながら、成年後見制度などを活用できるように取り組んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前の段階で十分な説明を行っている。また、家族会を開催し、改定等があった際には十分説明し理解を得ている。また、いつでも面談に応じ、疑問点のないよう努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様、ご家族様の要望を丁寧に聞き取り、その実現に向けて、スタッフ一同が共通理解をもち、一つ一つの介助につなげている。	・利用者の思い、要望は、利用者との会話を通じて把握に努め、意思疎通の困難な利用者には、表情、しぐさや家族からの情報により汲み取るように努めている。 ・家族からの意見・要望は来訪時や家族会などの時に聞きだすように努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、スタッフとの面談やレポートの交換、会議などの場を通して、新しい行事なども積極的に取り組んでいけるように、意思疎通をはかり、運営に生かしている。	・職員の意見・提案はユニット別会議、全体会議で聞く機会を設けている。そのほか、管理者は年1回職員の事業所運営に関するレポート提出時に面接を行い意見を聴取している。 ・職員の提案で、個人シートに「個別の入院歴」を追加し、緊急時対応に役立っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は管理者と定期的な話し合いを行っている。その中で情報収集を行い、環境整備や問題点の改善に努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は研修の機会を積極的につくり、職員が研修を受けやすいよう環境を整備している。外部研修等、研修費や交通費を支給する事で気軽に研修に参加出来るよう支援している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	代表者はグループホーム連絡会に入会しており、他のグループホームとの情報・意見交換、職員同士の交流が積極的に行われている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期段階での信頼関係の構築は容易では無いが、個人を理解し自然な形で信頼を得られる様努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前に御家族様と話し合いの機会を持ち、不安点の解消や、希望に沿う事が出来る様努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	御家族様・御本人様の希望を初期段階から把握・対応する事で信頼関係を構築出来る様努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一人一人を尊重し、明るく家庭的な生活を提供出来る様努めている。又、入居者様にお手伝いをして頂く事で、お互いに助け合いの力が生まれている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族様の負担も考慮した上で、年間行事等の参加を呼び掛けている。又、参加された際は交流を楽しむ事が出来る様工夫をしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	御友人や御家族様には気軽に御来設頂ける様声を掛けている。又、直接訪れる事が困難な馴染みの場所に対しては、テレビ等を活用し、職員が思い出を引き出す様工夫している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者のこれまでの交友関係等は日常会話の中で把握に努め、更に家族来訪時にも情報の入手に努めている。</li> <li>・行きつけのスーパー、コンビニでの買い物、美容院への同行、家族との手紙のやり取りなどの支援をしている。利用者の実兄に会いに遠方まで車で出かけたこともある。</li> </ul>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	トラブル発生を未然に防ぐ様 共用スペースでの見守りや環 境配慮等意識している。又、 不仲な入居者様同士でも職員 が間に入り活動の共有も出来 る様努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの 関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家 族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後であっても、 御本人様・御家族様に気軽に 接して頂ける様呼び掛けてお り、施設側からも関係継続の 為の取組みを模索してい る。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握 に努めている。困難な場合は、本人本位に検討し ている。	入居時に、それまでの暮らし 方を本人や家族から聞き出 し、情報収集している。その 人らしく暮らしてもらうよう 努めている。	・入居時のアセスメントで入居前の生活状況等 の情報に努め、入居後は職員との日常の会話か ら現在の思いや意向を把握し、それを個別のカ ンファレンスノートに記入し、毎月のユニット 会議で職員間で共有している。 ・コミュニケーションがとり難い利用者には本 人のしぐさや表情、家族との会話から汲み取っ ている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環 境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努 めている	家族や本人から情報を聞き出 すことや、直前まで居た入居 施設などからの資料で好みや 馴染みの暮らし方を知り、ケ アサービスに活かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する 力等の現状の把握に努めている	本人の望む過ごし方や状態、 出来ること、困っていること を職員が見つけ出し、カン ファレンスノートで情報共有 を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族、職員で意見を出し合い、また医師、看護師の意見も取り入れ、月に一度話し合いの場を設けている。それ以外にも状況に応じて対応している。	・毎月カンファレンスは、本人・家族の意向、職員の意見、医師・看護師の指示事項を参考に行い、介護計画は6か月毎に見直しが行われ、利用者の状況変化時は臨機応変に見直ししている。 ・居室担当の職員が毎月モニタリングし、その内容をカンファレンスに活用している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケースカンファレンスノートを活用し、気付いたこと思いついたことを記入していき、情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	同法人内の医師、看護師、S T、P T、栄養士と連携し、柔軟な発想で対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の運動会参加や、小学生の課外授業やボランティアの受け入れを行っている。また地元の消防署の協力を得て消防避難訓練も行っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関をかかりつけ医とする方がほとんどだが、本人の希望があれば優先している。協力医療機関からは月2回の往診を受けており、小さな変化にも対応できるようにしている。	・かかりつけ医に継続受診の1名を除き、入居時の説明で協力医で受診している。 ・協力医の往診が月2回、歯科医の往診、口腔ケアが週1回行われている。同一法人内訪問看護ステーションの看護師の健康管理が毎週行われている。内科・歯科以外の通院は職員が付添い、診察結果を把握している。	



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同法人内に訪問看護ステーションがあり、週に一度の健康管理もしている。変化があれば24時間対応できているようになっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の医療機関と連携して、必要に応じて話し合いの場が持てるようにしている。またかかりつけ医とも良好な関係を保つようにしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期を迎える場合、事前に家族、医師、看護師同席の上話し合いの場を持ち、家族が納得できるよう支援している。ターミナルケアは最近も含めて三例行っている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入居時に、重度化した場合の対応指針を利用者・家族に説明し同意書をもっている。</li> <li>・入居後、重度化・ターミナルケアが予想される場合は、家族、医師、看護師同席で話し合いが行われ、今後の対応を検討している。</li> <li>・職員に対する看取りの勉強会が所属法人のほか、訪問看護師により行われている。</li> </ul>	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当など緊急時の対応については、母体である老健の勉強会で必ずテーマにあげ実施しており各スタッフ参加している。またひやりはつとを活用し発生防止に努めている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、避難訓練を実施。各入居者のADLを考慮した避難方法で実施し不足の事態に備えている。職員は消化訓練も実施している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・夜間を想定した避難訓練が消防と連携し、年2回、各ユニットから1名の職員、消防、事業所の貸主、近隣家族の応援を得て利用者が参加している。</li> <li>・3日分の水、米、防寒用シート、懐中電灯などの備蓄品を確保している。</li> </ul>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1人1人を尊重 はホームの理念である為、各職員は日々意識して対応している。また声かけに対しても御本人様の気持ちに配慮した対応を心がけている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個人情報記載のファイル等は書庫に施錠保管している。</li> <li>・法人理念の「大切な人だから・・・」の具現化のために、職員全員で利用者の対応に問題がないかユニット会議・全体会議の席上お互いに確認している。</li> <li>・職員は法人本部と事業所でプライバシー保護、倫理の研修を受け、共有している。</li> </ul>	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	会話や交流の中で本人の意向を理解できるよう努め、自己実現へ導けるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々を尊重し入居者に合わせた生活が出来るよう努め、本人が安心して過ごせるよう考え支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	習慣や意向を踏まえ、本人が求める身だしなみやおしゃれが出来るよう支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	おやつは可能な限り手作りで作り、入居者にも手伝っていただいている。また食事もホーム内で作ったカレーを1階のテラスで食べる会など年内に幾つか企画し、楽しみへと繋げている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者の食欲を高め、好きなものを楽しく食べる工夫として、個人又はグループの希望に沿い、カレー、流しそうめん、餃子、さんまなどを食べる機会を設け、事業所内での食事会又は外食の機会を多く設けている。</li> </ul>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士がバランスの取れた献立を作成。また個々の能力を考慮した食形態で提供している。各職員は入力チェック表を活用し食事状況を把握している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問歯科と連携し口腔状態の把握に努めている。入居者に対しては食後の口腔ケアの声かけ・見守りまたは介助を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄表を活用し個々の排泄パターンを把握した上での誘導や定時誘導を行い、失禁防止に努めている。	・排泄表により、利用者ごとの排泄パターンを把握して声かけ誘導の結果、失禁が減少した。 ・利用者の安全のために、必要な利用者には夜間のみポータブルトイレを使用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	入力チェック表や排泄表を活用し状態把握に努めている。また排便出来るよう各自に水分摂取や運動を必要に応じて促している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	基本的には本人の希望や意思を尊重している。入浴拒否のある入居者に対しては丁寧な説明や、状況に応じ、時間を空け再度声掛けや翌日実施としている	・利用者は平均週3回、入浴し、入浴時間帯は出来る限り本人の希望に合わせて、ゆっくりと入浴できるよう支援している。 ・季節には菖蒲湯・ゆず湯や温泉入浴剤を使用して、季節感と温泉気分で楽しく入浴する工夫をしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の生活スタイルや体調を把握した上で支援し、温度管理などにも気を配り、ストレスの軽減に努めている。入眠中の訪室は起こさぬ様、光や音に注意している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の処方薬は個人ファイルに明記されており、いつでも確認出来る。Drとも適宜相談、調整をし、また月2回の服薬管理指導により副作用などの注意事項やアドバイスを受けている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	会話機会に情報収集を行い、御本人の嗜好や楽しみなどの把握に努めている。生活上の役割には御本人の希望や積極性を重視している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	基本的に毎日散歩を実施。入居者の希望を確認した上で、年に数度の全体外出や毎月の個人外出を適宜企画・実行し、買い物などの外出にも同行する機会を多く取っている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者は積極的に外出を楽しみ、晴れた日には職員と、散歩や近くのコンビニに買い物に行ったり、ボランティアや家族の支援での外出もしている。</li> <li>・利用者の希望で個別に職員が付き添って外出に出かけたり、年に数回、事業所のイベントで桜見物やイチゴ狩り、鎌倉観光などに出かけている。</li> <li>・車椅子利用者も事業所の車椅子対応車で外出している。</li> </ul>	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理可能な入居者に対しては必要に応じて支援しているが、管理が必要と判断される入居者に対しては支払い代行を御本人に理解して頂いた上で行なっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	定期的な面会がない場合や御本人様が不安を感じている際などは必要に応じて職員側から御家族や友人に連絡し、可能であれば電話や面会をして頂けるよう支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	空間の清潔保持には十分配慮し、職員は大きな音や声を出さないよう意識している。季節感や癒しを目的としリビングに植物を配置するなど工夫している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食堂にはポインセチアの花やクリスマスツリーが置かれ、利用者に季節感を感じさせている。</li> <li>・往年の映画スターのポスターや行事の写真を壁面に貼ることにより、利用者と職員の会話が楽しく弾んでいる。</li> <li>・テーブルを分散配置することにより、自分の好む場所に座るなど居心地よく過せる工夫をしている。</li> </ul>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアは各入居者の交流の場とし、会話機会も多く作るよう努めている。また、状況に応じた配置転換なども適宜実施し、一人一人が快適に過せるよう支援している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に可能な限り御本人のなじみの物を持ってきて頂く様、御家族に依頼している。入居後も状況の変化に合わせて、その都度工夫をしている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・居室内にはエアコンと照明器具以外は、馴染みの家具などを持ち込み、壁面には趣味の絵手紙や家族との思い出の写真を飾って、居心地の良い部屋作りをしている。</li> <li>・利用者の中には、仏壇や冷蔵庫を置いている人もいる。</li> </ul>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全を最優先する中でも、過度に介助や声掛けするのではなく、できることを意識し、各自の状態や状況に合わせて支援している。		

# 目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホームウエルケア

作成日 平成25年2月1日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。  
 目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくなならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

## 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	10	ご意見箱を設置しているが意見が入らない状態にある。家族からの意見や要望がもっと出しやすくなるような対応や工夫が必要である。	年2回以上の家族会開催	直接にご家族と話し合える場を設置する事で意見や要望を聞く機会が増える。又、他の家族もいる事で家族同士の交流や共通した悩みを話し合える事が出来る。行事でご家族を呼ぶ機会はあるため、行事後の家族会開催を設置していく。	1年
2	35	年2回の夜間を想定した消防訓練（1回は消防士も同席）を行っているが緊張感の持続や練習量から訓練回数を増やす必要がある。	自主訓練を年2回以上行う。	現在の訓練は防火責任者（管理者）が計画、指揮をしている。スタッフが計画から携わり訓練を指揮する事で訓練に対する責任や緊張感、意識付が備わる。	1年
3					
4					
5					

注) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。